南発見! 克原住吉、昔を未来へ 住吉歴史資料館

第9号

住吉歴史資料館だより



住吉のまちかど

~ お旅筋の社号標「本住吉神社」~

現在、本住吉神社の社号標(石碑)は2箇所あります。神社表鳥居脇の1柱と、もうひとつは上の写真でお旅筋と鳴尾御影線が交差するあたりに立っている1柱です。表には「本住吉神社」と彫られており、裏面は、「明治四十年一月建之 大阪平野町四丁目 竹原友三郎、同安土町三丁目 和泉金兵衛、當村吉田町 野々山治市」と彫り込まれています。鳥居脇の社号標は、元は、「縣社本住吉神社」となっていました。現在は、神紋「精・検」の板を「縣社」の2文字の上に被せています。裏面は同じです。

さて、写真の社号標ですが、横田宮司著『本住吉神社誌』(昭和47年6月)によると、「江戸時代の 寛政九年(1797)に馬場先浜(埋め立て前の住吉の浜)に建てられた鳥居が、故あって、馬場先中ほ ど(お旅筋の中ほど)に移され、この鳥居が昭和4年(1929)になって阪神電車の高架工事にともない、 再び、海岸に移された。このとき鳥居と一緒にあった社号標も同時に現在地(ダイエー南テニスコート の西南角)に移された」とあります。これが写真の石標です。

『武庫郡誌』に掲載の本住吉神社表鳥居脇の社号標は、写真の石標と思われます。なぜ、ダイエーの南に移されたのでしょうか。

社号標が建設された明治40年(1907)当時、本住吉神社の社格は郷社で1ランク上の縣社に昇格すべく運動中でした。それは大正5年(1916)に認められました。

縣社昇格と同時に、表鳥居脇の石標は「縣社本住吉神社」に代え、従来あったものは、馬場先の中ほどに移され、それが現在の石標となって残っていると思われます。

では、明治40年にすでに「縣社本住吉神社」の文字で彫り込んだ石標を準備して、保管していたのでしょうか。縣社昇格の9年も前です。

ふたつの石標の字体は同じですが、ただ、「縣社本住吉神社」の7文字のみ少し違うようです。さて、 ミステリーですね。一度見比べて下さい。

資料館だより 第9号目次

住吉のまちかど お旅筋の社号標「本住吉神社」

······1ページ

住吉中学校・被災地中学生 サミット in KOBE 2014 に参加

住吉歴史資料館事業推進委員 前田康三……2~3ページ

住之江区のだんじり

東求女塚古墳と 菟原処女伝承(3)

近大姫路大学人文学・人権教育研究所専任講師 住吉歴史資料館専門委員 松下正和・・・・・・8~12ページ

住吉歴史資料館ご案内

再発見! 莞原住吉、昔を未来へ

開館の目的は、「住吉に住む人々が郷土を理解し、それを子供達に伝え、子供達も郷土に誇りを持ち、ずっと住み続けたいと思うような町にしたい。住吉歴史資料館は文化・歴史的の面からそれをお手伝いする。」ことです。

そのため、以下を行います。

- 1. 本住吉神社横田宮司家に伝わる古文書の整理。 関係文書、記念物、言い伝えの収集。
- 2. 展示物のメンテ。 展示室、座敷を使用しての各種展示の企画。
- 3. やさしい、楽しいイベントを企画して みんなの地域への理解を深める。
- 4. 「住吉歴史資料館だより」を通しての広報。 成果の発表。

●住吉歴史資料館の刊行物●

- 1. 本住吉神社詳誌 平成22年5月刊
- 2. 兎原だんじり本 平成13年刊 在庫なし
- 3. 住吉歴史年表 平成19年刊
- 4. 住吉歴史資料館だより創刊号 在庫なし
- 5. 住吉歴史資料館だより第2号
- 6. 住吉歴史資料館だより第3号 在庫なし
- 7. 住吉歴史資料館だより第4号
- 8. 住吉歴史資料館だより第5号
- 9. 住吉歴史資料館だより第6号
- 10. 住吉歴史資料館だより第7号
- 11. 住吉歴史資料館だより第8号
- 12. 住吉歴史資料館だより第9号
- 13. 住吉歴史資料館だより臨時増刊 住吉谷の水車展 (平成22年秋イベントの冊子資料)

お願い

広くみなさまからの情報、資料のご提供をお願い致します。

- 1. 各町協議会の古い記録類、書類。旧青年団、警防団の旗など。
- 2. 各お家に伝わる古い書類、絵図、古文書など。
- 3. 各お家に残っている、農耕具、或いは、馬や牛が牽引する荷車(いわゆる"馬力")の道具類などの労働具。
- 4. 古い写真(近所、町内、住吉村、武庫郡、神戸など)、小学校の卒業アルバム、卒業証書。
- 5. 災害時の記録や写真。(阪神大水害、阪神大震災、昭和42年水害 など)
- 6. 戦時中ののぼり、腕章、たすき、或いはバッジ、記念品など。
- 7. だんじり、住告祭の写真。(渡御、宮入、宮出しなど)

また、長年住吉に住んでおられる方々に気軽にむかし話をしていただいております。"ああ、あの人なら、住吉のこと"よお知ってはる"、という方をご紹介下さい。

編集後記

発行が若干遅れましたが9号をお届け致します。資料館での事業は今年で6年目となり、連携事業を大切にしています。地元の住吉中学校、住吉小学校、そして渦が森小学校や東灘図書館と連携し、災害の歴史や防災の取り組みのお手伝いをしています。今年は初めて、住吉中学校の文化祭に参加しました。これは、住吉中学校が8月に中学生防災サミット in KOBE 2014 に参加したフォロー展示でした。今回の9号では防災サミットでの住中生の活躍をご紹介しています。災害がおこれば、頼りになるのは自分達中学生だとの心強い自覚を宣言してくれています。

また、久しぶりに松下先生の東求女塚古墳についてのお話を掲載します。ここでは、現在の姿からは想像もできない巨大な古墳の姿が浮かびあがります。明治や大正の頃までは残っていた墳丘の写真や絵を掲載しています。とても貴重なものです。

だんじりシリーズでは、住之江区のだんじりを紹介しています。今年92歳になる酒井清さんのメモ、「住之江地車記」を元にしています。立派なだんじりは太平洋戦争の空襲で焼失しました。しかし戦後すぐの昭和21年の「昭和南海地震」のさなかに復活の話しあいが始まっています。

来年は大震災後20年。防災、減災の取り組みを引き続きお手伝いして行きます。

(M.U.記)

- ■資料館の作業日は毎週木曜日の午前中です。
- また、別途、日曜日は展示室を開館しています。(世話人会の委員の方がお世話)
- ■資料館の座敷ではお茶会が「菟原茶華道会」主宰で開催されます。 平成27年は、1月18日、3月8日、5月10日、7月12日、9月13日、11月8日の各日曜日です。

住吉歴史資料館 本住吉神社内御本殿西 〒658-0053 神戸市東灘区住吉宮町7丁目1-2 fax専用078-201-3738 メールアドレス shiryoukan@iris.eonet.ne.jp

ミッ 山 i 被被 災地

ピフ 月5日に起こった「阪神大水害」につい ちの1校として昭和13年(1938)7 校が選ばれ、我が住吉中学校は、そのう 学校サミット』に神戸市を代表して5 て発表しました。 平成26年8月19日、神戸市長田区の レホー ルで開催された、『被災地中

災から20年となる機会に、防災への取 り組みにつき、神戸市が初めて企画し このサミットは、来年、阪神淡路大震

たものです。

復興への思いを語り合い交流を深めま は、六甲山での合宿を行い、防災や訓練 北、近畿、九州の各地から、13中学校、25 人の中学生がサミットに集まり、18日に 近年の自然災害で被害を受けた、 東

した。 そして、19日の合同発表会に臨みま

> も住吉川 どを発表しました。 たことはまだ、記憶に生々しいことな 阪神淡路大震災でも大きな被害を受け あることを述べ、そして、過去より何度 花崗岩で出来ている六甲山のふもとに から始まり、その地形、災害にもろい

伝えました。

ました。 時の横田政次郎村長のリ ーダー

そして、阪神大水害を調べた結

住吉中学校の発表は、地元住吉の紹

が激しいなか、住吉小学校では校舎の 発表の中心は、「阪神大水害」で、風雨

695名もの犠牲者が出たことを 土砂に埋まったこと、住吉全体で 死の脱出を行ったこと、運動場が 1階が水没し、児童が2階から決

災害復旧では、各地から勤労奉

の水害に遭ったこと、そして

で復興に取り組んだことを発表し を転じて福となすように」、全村民 シップのもと、村を挙げて、「災い てくれたことを挙げ、住吉村が当 仕、即ち、ボランティアが駆け付け

るかを考え、次の3つを強く宣言 果として、中学生として何が出来

しました。

・僕たちは住吉川を大切にし、これか らも住吉川とともに生きていきます

住吉歴史資料館事業推進委員

前田 康三

- ・数十年に一度の水害を怖がりすぎず、 があり、この言葉を忘れないようにし えたいと思います。備えるといえば、 正しく恐れ、過去から学び、伝え、備 平生釟三郎さんの言葉、「常二備へヨ」 甲南学園創立者で文部大臣を勤めた 昭和13年水害の教訓として、水害後
- ・地域の行事を通して地域の一員とし 査」などを継続していきたいと思いま 吉川クリーン作戦・住吉川の河川調 きたいです。これは「だんじり祭り・住 て絆をつくり学んだことを伝えてい

す。」と締めくくってくれました。 持ち続けていくことが大切だと思いま として、地域防災を担う」という意識を そして、「僕たち中学生が地域の一員

吉成中学校と、中学生として出来るこ 大震災の被災地を訪問し、仙台市立南 修の一環として、8月4日5日に東日本 住吉中学校は、被災地サミットの研



プレゼンテーションの一部分①

私たち、中学生にできること

神戸市立住吉中学校

~住吉川とともに~



防災サミット in KOBE 2014

プレゼンテーションの一部分②

終りに東日本震災を経験しています。 同じ中学3年生の彼らは小学5年生の

います。

日を過ごします。そんな中学生の役割 学生・高校生と違い、中学生は地域で1 通勤や通学で地域を離れる大人や大

とについて意見交換を行いました。尚、

南学園編「阪神大水害の記録」を提供し、 住吉村編「昭和十三年阪神大水害」。甲 をしました。 ヘヨ」の石碑を撮影させて頂く仲立ち またアドバイスをしました。また、甲南 にこられました。資料館では、水害写真 小学校にお願い 発表するにあたり、資料館にも相談 し、校庭にある「常二備

並びに山内里穂さん(生徒会副会長)で 基さんでした。 たのは、岩本扶美さん、そして、公文遥 した。そして、発表のために準備協力し 発表は、竹本龍登さん(生徒会会長)、 全般指導されたのは、朝倉禎尊先生

発表する竹本さん、山内さん



ことです。

参加中学生全員集合

でした。

跡からみる住吉の災害展、もっと伝え 学生サミットのフォローアップ展示「遺 全学年の生徒、そして来場の保護者の よう、もっと備えよう」を行いました 方にも見て頂きました。 の住吉中学校文化祭に参加し今回の中 住吉歴史資料館では、10月17日、18日

中学生防災サミット参加校は以下の通りです。

神戸市:住吉中学校・本庄中学校・駒ヶ林中学校・太田中学校・白川台中学校

北:岩手県大船渡市立綾里中学校·宮城県南三陸町立志津川中学校·宮城県仙台 市立七郷中学校・宮城県仙台市立長町中学校・福島県いわき市立四倉中学校

東

畿:奈良県五條市立西吉野中学校、兵庫県佐用郡佐用町立上月中学校

九近 州:長崎県島原市島原市立第三中学校

区のだんじ

今回は住之江区のだんじりについて

します。「資料館だより」では、これ

住吉歴史資料館事業推進委員住。之、江、地、東、元、老

雅 夫 清

純金製であった。 た。錺の白い金具は洋銀、黄色いものは

背は高く、幅も広かった。泥台の後か

ら鳴り物方(同注:太鼓、鉦などのお

月31日)を勤めた人である。 事長(昭和43年2月5日~昭和50年5 者)を勤め、長じて住之江地区長、並び 地車帳頭(注:だんじり運行の全責任 、財団法人住吉学園の第10代、 11代理

住之江区について

どのようであったかを簡単に振り返っ

れた、明治や昭和のころの姿、地元の に紹介しました。併せて、祭がおこなわ の姿について、預かっている資料をもと まで空区、吉田区のだんじりのむかし

人々の思い、いわゆる「だんじり祭」が

てきました。

紹介ですが、同区の酒井清(大正11年

さて、今回は、住之江区のだんじりの

迫ってみます。

料や写真を元に、住之江のだんじりに

922生) さんから預かっている資

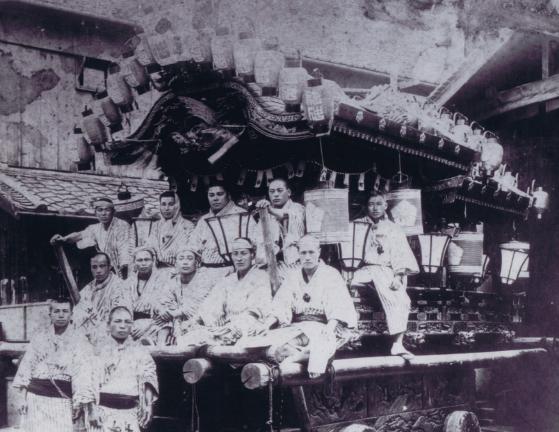
江区」に改称したものである。 民の投票で、紀元節の2月11日に「住之 の紀元二千六百年を記念して仲区住 手の呉田区との中間にあることからそ 区制を敷いたとき「仲区」となった。 う呼ばれていた。昭和15年(1940) 「仲」の地名の由来は、本住吉神社と浜 れ、大正5年(1916)3月住吉村が 住之江区は、元々「仲之町」と呼ば

住之江区の先代だんじり

まとめる形で紹介いたします。太字は 貴重なメモを書いておられ、これらを 「住之江地車記平成26年版」のふたつの

酒井さんは、「住之江地車記」並びに、

檀、屋根はタガヤタン(鉄刀木)であっ りの下部、土台の部分)はもとのまま 年前後に購入した。泥台(注:だんじ 洋戦争空襲で焼失)は魚崎から明治20 勾欄(てすり、らんかんのこと)は黒 住之江の焼けただんじり(注:太平 上部は後に手を入れた。柱は紫檀、



〈写真1〉 住之江だんじり昭和4年第5代帳頭安田幸太郎

『住之江地車記

住之江区

酒井清著

酒井が聞き取りしたものである。 衛門氏(明治33年1900年生)から

これらの話は住之江区の住野市左

住野氏は、青年時代、昭和5年第6代

はやし方)が出入りできた。〈写真1〉

る専念寺の倉庫に納めた。 のだんじりは、解体して、同区内にあ を売却したところもあったが、住之江 てだんじりの曳き出しを中止したこ とがあった。住吉の他地区はだんじり 明治の終わりから大正初期にかけ

庫は処分した。 ればと断り専念寺に納め、だんじり倉 で買いにきたが、せめて五百円でなけ 当時、だんじりブロー カー が三百円

典)に際して、だんじりを曳き出すこ り大工)を呼び、会館の庭で組み立て させて曳き出したのである。 とになり、直前に地車大工(注:だんじ 大正天皇の御大典(注:即位礼の式

倉庫)を建てる土地がなく会館の庭先 常太郎さんの庭石を置いていた土地を その後1年ほどは地車庫(だんじり rを被せて置いていたが、酒井

図柄は、御大典に因む「鳳凰」であった。

昭和8年(1933)に幕を修理し

た。また、昼提灯(注:昼

借り受けて地車庫を建てた。

だが、青島陥落時、山から杉の葉をとっ第1次世界大戦の間も2年ほど休ん てきて屋台のように装って2日ほど出 した(昭和46年『本住吉神社記』より)

があることと考える。 は、この記事はない。恐らく、別の出典 誌』(昭和47年刊)と思われるが、同誌に 『本住吉神社記』とは『本住吉神社

尚、『神戸の民俗芸能―

東灘編―』(神

が、住之江区(当時、仲区)のみ別誂え 地区の聞き取りとしてこの記事がある。 戸市教育委員会 大典に際して、だんじりを曳き出した (特注)のゆかたを新調して奉祝した。 昭和3年(1 928)の昭和天皇の御 昭和50年)には住吉

住之江だんじり昭和10年ごろ宮入り後。 右の松は先代の「御影の松」 〈写真2〉 間に飾る提灯でロウソ 絵を周囲に施した提灯) 厚みのある豪華な刺繍 クを灯すものではなく 北守護神の双竜、白虎、 を8個新調した。東西南 個、五十円した。 玄亀の計8個で

れていただんじり引き 大正初めまで禁止さ

> 年々盛んになって昭和11年前後に戦前 き出しは止まってしまった。 2〉その後、支那事変が昭和12年(19 の最盛期を迎えることになる。〈写真 出しも認められるようになり、祭礼は 5)太平洋戦争敗戦までだんじりの曳 37) に始まって以降、昭和20年(194

太平洋戦争中のだんじり

帳頭川口秀男で祭礼は終了した。第14 争、太平洋戦争)で昭和13年以降地車 本通りに御神燈を6年間飾った。 ない代わりに、住吉祭の日には住之江 代帳頭山田富三郎は、地車を曳き出せ 曳行が禁止された。住之江区は第13代 支那事変、大東亜戦争(注:日中戦

活の立て直しを中心に、なんとか平和 安全のため左右に避難する日々が来 空襲で焼失、かつての祭の楽しさは走 む時期となるが、すでに住之江地車は な日常を取り返し、ようやく祭を楽し ともに同時に敗戦の苦しき連日で、 無念で身の置き所もなかった。 なく、この世に神仏はいないのか残念 た。不幸にも食糧難で食べるものも乏 しかった。避難、空襲で連日生きる望み 悪夢と地獄とも思った戦争の終結と 以後、戦争が激しくなり、我が身の 生

馬灯の如く頭の中を駆け巡った。

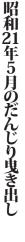
の住吉祭(だんじり祭)はとても出来な たが、祭礼どころではなく、村を挙げて 初めての本住吉神社例大祭の日であっ 大な被害があり、昭和21年5月は戦後 住吉村は村の7割が空襲を受けて甚

は昭和13年から持ち送りの第14代山之江本通りに集合した。住之江区帳頭 てきた御影弓場の地車の計4台で住 なかったが、祭当日、戦争で焼け残った 田富三郎であった。 山田、空、吉田の地車と住之江が借り 昭和21年5月は、まつりどころでは

戦後のだんじり復活への動き

途切れなかった。 舞われたが、それでも、熱い話し合いは会議では、会議中に震度4の地震に見 だんじりの復活を話しあった専念寺の 画がスター き出し以降、住之江のだんじり復活計 昭和21年の借り物だんじりでの曳 トする。焼失した住之江の

地震では、神戸市域でも震度5弱を記和歌山県南方沖で発生した昭和南海 の議論が交わされていたことになる。 まで専念寺ではだんじり復活について の地震に遭遇したのなら、午前4時頃 録している。もし、「専念寺の会議」がこ 昭和21年12月21日午前 4時19分に



区の高羽丹生神社の氏子である高羽区があるとの報告があった。神戸市灘 地車を購入し早速修理に入った。 町であった。昭和22年、住之江区はその その会議では、地車を売却したい地

店?)、幕は小野の絹常小紫であった。 車修理は完了 代吉、彫り師河原啓秀で昭和25年、 も京都の高橋製作所(或いは後藤金物 当時の区長は藤田藤七、大工大石巳 した。太鼓は京都、金物 地

修理完了した住之江区の地車は、昭

に住吉祭でのだんじり曳き出しが復いは重雄)であった。尚、昭和26年5月 参加した。帳頭は第15代松原繁雄(或和25年10月8日の「神戸みなと祭」に 活したが、松原は復活のために尽力 し、帳頭を勤めた。

加はそれを祝う意味もあったかと思う。 戸市と合併した。10月の神戸みなと祭参 昭和25年4月1 · 日武庫郡住吉村は神

尚、昭和24年のみなと祭に参加したと いう人も

〈写真3〉 住之江だんじり平成12年東灘区制50周年記念 日。当時 は日曜日 月8日は 用した。 25年を採 の稿では 休日でな 土曜日は 昭和25年 く、それ は 土 で、 ゆえ、こ 尚、 24 年 戦 曜

後の、 事復活 吉祭の神 住

> り)が樽神輿で行われた。は、昭和25年で、御神体の渡御(おわた だんじりの巡行復活は、それより一年

遅れた昭和26年よりとなる。

住之江だんじりに生まれ変わった

彫り 受注額五千五百円であった。 場で河原一門で仕上げたものである。 和6年(1931)神戸の脇の浜製作 仏閣の彫り物作品を手掛けて だんじりであった。それまでは神社や 高羽のだんじりは、名人と言われ 物師河原啓秀が初めて手掛けた いた。昭

る と、 10

曜日をみ

いるが

亜戦争の空襲により前後の屋根が焼 でも見たかった。 い素晴らしいできばえと聞き一目だけ 失していた。この地車は他に類を見な 残念なことに、この高羽地車は大東

ら購入した住之江地車は、左右2枚幕 住之江区は残存部分のみを購入した。 屋根は空襲で焼失してしまっており、 となっている。〈写真3〉 で図柄が大きく落ち着きのある作品 あり、彫りが小さく見えるが、高羽か て分かるように、他の地車は3枚幕で ちなみに、左右両側の土呂幕部分を見 特に、屋根はすばらしかったと聞く

泥台というが、土呂幕とは、この泥台の だんじりの下部土台部分の木組みを

> て左右の木組みの柱が2本なら三枚う。もちろん木製だが、これを幕に見立 幕、柱が1本なら二枚幕という。 前後左右の4面に彫られた彫刻をい (住之江)は二枚幕となる。 羽

判明している。住吉山田区のだんじ 明であったが、吉田國一であったことが りであった。 り、高羽(住之江)と山田は兄弟たんじ も神戸脇の浜の同所で製作されてお ため、地車を製作 高羽の地車は屋根が焼失 こした大工名は長く不屋根が焼失していた 1)

戦後のだんじり運行の世話方

たを着るようになった。 物姿であったが、戦後は若仲同様ゆか え、四役となっている。祭礼の衣装であ 副頭、会計であったが、戦後は書記を加 るが、協議会(町内会)役員はセルの着 地車運行は戦前は三役、即ち、帳頭

三十日の夏祭りであったためである。 より5月4日、5日となった。 日、13日となり、昭和42年(1967) なる。明治19年(1886)より5月12 現在の太陽暦では8月のはじめ頃に 尚、ゆかたを着るのは元々旧暦六月

交通事情とだんじり

しくなり地車の曳行は禁止され倉庫 戦後、昭和30年代になると交通が激

はやしも無くただ見るだけであった。 地車で飾り付けをすることもなく、 でほこりをかぶる事が多くなった。各 お

おしこまれる。陽の目を見るのはいつみで、大型の地車の出番なく裏通りへ の事やら。 日毎、車輌の往来が激しさを増すの

め 本住吉神社境内にだんじりを集 地引復活にそなえた

役員で地車を神社に集め祭礼日にか ざりつけをしておはやしをやればど 地車の曳行が出来なければと、地区

> を快く受けて頂いた。〈写真4〉 社宮司さんには地車車庫を作ること うかとの申 し合わせをした。本住吉神

りを行ったこともあった。 許可が出るまでを待つのみであった。 (注:だんじりを町内で曳くこと)の しを奏でる事で各地区での地引き 一時期、拝殿前まで曳き出し神前で練 祭礼日にかざりつけをして、おはや

で終了、一同全員で地車の復活を願った。 い、最後にだんじりのおはやし鳴り物 は男女青年団により演芸会をおこな 地車が曳かれない時期、住之江区で

なった。 調査が始まり、先ず、本住吉神 社氏子所有地車7台が対象と 一方、神戸市の無形文化財

じり復興後は7台で現在神戸 定されている。 市の登録無形民俗文化財に指 り」は6台であり、茶屋区だん 査当時、「本住吉神社のだんじ この昭和48年無形文化財調

10名の総勢60名の若仲で神前り1台のみであったが、各地区 が動いたのであった。また、翌 年昭和49年には住之江だんじ 前での練りを行った。境内のみ とはいえ2年ぶりにだんじり この調査のため特別に拝殿

練りをおこなった

だんじりまつりの取材放映

バーであった神戸大学中村茂隆先生と六三〇」で、昭和48年調査団のメン 吉神社の順に地車が紹介された。 毛天神、御影弓弦羽神社、そして、本住 酒井が「地車祭礼対談」を行い、灘区五 で全国放映された。番組名は「朝特急 昭和49年9月4日には、サンテ -であった神戸大学中村茂隆先生と

明した。住吉の地車祭礼では多数の地 のみである。 お墨付きを頂く。長く続くことを願う ら、阪神間では最高の祭礼であるとの 車が曳き出されにぎわっていることか のいわれ、等色々の出来事を酒井が説 住吉のだんじりの祭礼由来記、ゆかた 当日は午前6時3分の番組開始で、

だんじりの町内巡行復活へ

井がマイクで説明した。 るだけきめ細かく見物の皆さまに、酒 作大工、並びに彫刻の図柄などを出来 行の時間を長くしたい心で、地車の製 活後の「宮入り」では、少しでも地車曳 庫へ収納するならとの条件で昭和50年 やがて、当局より午後5時までに車 975)、地引きの許可が出た。復

フ一同、更に勉強を続けることにした。 これが、意外にも好評で喜ばれ、スタッ

最近の祭で感動したこと

で楽しむ祭礼の姿だと目頭が熱く はない。大いに反省すべきと思う。 るのを覚えた。元気な人間だけの祭で せ一緒になって地車を曳いてもらって 由な子供たちに地車の曳き綱を持た いた。この姿に、これが本当に老若男女 住吉呉田地区の地車は、身体の不自 な

号以降で掲載します。 の生き字引として住吉歴史資料館でも 貴重な資料を提供して頂いています。 たびだび聞き取りや教えを受け、また、 資料のうち、紙面の都合で以下は次 酒井清さんは、今年92歳、だんじり祭

さんたちのこと、大正14年以降の「住之 会に掲載します。 どんな形をしていたかの写真も次の機 地車研究会が平成22年にまとめたもの の。これは酒井清さんの所属する兵庫 じりの江戸から平成までをまとめたも りの歴史一覧表」 とのことです。また、初期のだんじり 江地車歴代帳頭名簿」、それに、「だんじ だんじり大工やだんじり彫刻の職人 東灘区31台のだん

長く続くことを祈ります。 ており、酒井さんのおっしゃるように、 だんじり祭は年々賑やかになって来

酒井さん、いつまでもお元気で



和

■木々が生い茂っていた古墳

神社所蔵の「住吉村字図」(寛政年間) 能性が高いことを紹介いたしました。 女塚古墳を「乙女塚」と呼んでいた可 されており、当時の住吉の人々が東求 ては、東求女塚古墳が「乙女塚」と記載 塚」と「処女塚」との両方の呼称があっ ました。その結果、地誌類では「求女 にみえる東求女塚古墳について検討し 前号では、江戸時代の地誌や本住吉 わけ「住吉村字図」におい

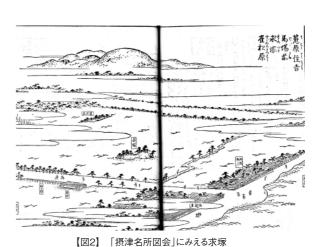
東求女塚古墳の状況について記してみ たいと思います。 づきながら、幕末から戦前にかけての 今回は、主に『住吉村誌』の記述に基

南字塚前にあり、民地たり、封土の高 住吉村地誌(皇国地誌)には「本村の東 五十間許」とし、明治十六年一月編纂の 会』にはこの塚を説明して「塚の巡百 墳です。前回に紹介した『摂津名所図 畝二十七歩とあり」としています。『住 さ一丈、周囲八百四十七間、積面一反四 とは西方に前方部を向けた前方後円 を残すのみとなっていますが、もとも 破壊され、求女塚公園中央部に石組み 現在では、東求女塚古墳はほとんど

> 二四歩」となっています(【図1】)。 所蔵古地籍図」によると、古墳の地は 吉村誌』掲載の「遊喜園及住吉村役場 「原野」扱いで、その広さは「二反六畝

端は遊喜園の講堂の西端に及び、後円 明治初年に破壊される以前、塚の上に ていたとあります。また、鬱蒼たる森で 部の高さは四、五間もあり溝を廻らし 一面クマザサが生い茂り、前方部の 『住吉村誌』掲載の古老の話として、





来ます。 図」(【図3】)では塚の上に樹木が描か 話はとても貴重な情報です。確かに、 昼でもフクロウの鳴き声が聞こえたと れており、 『摂津名所図会』(【図2】)や「住吉村字 もいいます。今となってはこの古老の 、往時の様子を忍ぶことが出

一壁土に利用された古墳の盛り土

形となってしまったのでしょうか。その た東求女塚古墳が、なぜ現在のような このようになかば「森」のようであっ

> 頃には塚の上には木も少なくなってい たのかもしれません。ただ、もうその 異にし、粘り気は少ないが赤黒色であ 盛り土は「此の地方の砂質土とは趣を 盛り土を削り取り、壁土として利用 たようです。 とあります。壁土としては良い土だっ り、後に此が壁土として利用された」 ていたことが挙げられています。この 大きな要因の一つとして、 村民が塚

8

はあります。なお、東京国立博物館の 京国立博物館)より学術研究の資料 とで返送されてきたと『住吉村誌』に り、後に下あご骨一個は不要というこ 折れたもの一本・顎骨一個」が出土し、 刀一(但し破砕)、髑髏腮一」となってお の品目は、「鏡三(内二破砕)、曲玉一、太 を経由して送付されました。その寄附 五年二月に東京帝室博物館(現在の東 です。これらの出土品は、後の明治四 ので成人男子のものにみえたとのこと を見た人の話では、かなり大きかった 村役場で保存されていました。あご骨 して寄贈依頼があったため、県警察部 ていた際に、「鏡四面・曲玉一個・古刀の 明治五年頃、村民が古墳の土を取っ کے

「遊喜園及住吉村役場所蔵古地籍図」(『住吉村誌』より)

地租改正によって税金が課せられると 野」に変更し、村有地になったとありま だ、当時としては他に利用法もなく、 らの遺物の発見を契機として、ようや いないため、明治十九年に地目を「原 いうこともあり、「ただ」でも貰い手が く畑地への開拓が中止されました。た ■盛り土の売却による墳丘の消滅 さて、『住吉村誌』によると、古墳か

点線は発掘部分

(東求女塚

九人月

和行

为新

习

污对

场六

せ口

住吉村の絵図にみえる「乙女塚(東求女塚)」

低地千余坪の地面嵩上げ用として、塚 に記載されています。 の半分以上が失われたと『住吉村誌』 ようとしました。その結果、浜新田の の盛り土を売ってその地を畑に利用し 町)に譲渡しましたが、勝広氏は古墳 の地が交換されました。村上氏は後に (茶屋区)と交渉の結果、塚の地域とこ 広げるために、地主の村上福之助氏 迫られ、その校地を村役場となる地に この塚の地域を勝広富次郎氏(御影 その後、住吉小学校が拡張の必要に

(3, 24.

#91

梅耳梅

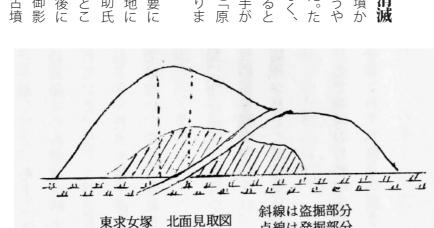
年松

【図3】

一山山

治三二年のことであり、 古墳が村上家の所有となったのは、明 い事情が垣間見えます。それによると、 吉、一九八四年)からは、もう少し細か る村上吉胤氏の著作『灘の四季』(わた ただ、村上福之助氏の息子さんであ

ろうと、 困ったため交換策が採用されたのであ 率上昇による校舎増築の建築費を捻 も逼迫している中で人口増加と就学 多額の国費を費やした後で村の財政 ととなり、その換地として受け取った 出するだけで精一杯であり、用地費に ものだそうです。当時は日清戦争後で のではなく、当時住吉小学校地拡張の ため、村上家の所有地が収用されるこ 村上吉胤氏は推測してい



【図4】「東求女塚北面見取図」(『灘の四季』より)

写真を見ることができます。興味をお よって、東求女塚古墳出土鏡のカラー ムページにある「画像情報検索」に

西

門屋大大郎

心部村

回に詳れ ださい。これらの出土品については次 持ちの方は是非アクセスしてみてく しく紹介することにし たい

氏自身が現場指揮をとって、明治三三 氏は判断しました。そこで、当時県下 重な記録となりました。なお、売却さ スケッチされており、今となっては貴 査では遺物が発見され、古墳の様子も 考えられます。ただ、この時の発掘調 は御影町の勝広氏に売却したものと ので、購入の翌年つまり明治三三年に ため一年後には売却されたとあります す。さらには、私費発掘の失費を補う 年に後円部の発掘調査を行ったそうで を招聘して指導を受けながら、福之助 の考古学の権威である福原潜次郎氏 るまでに埋蔵物を調査すべきと福之助 されていたので、古墳の全容が失われ されており、壁土として盛り土も使用 村上家の所有となる前から盗掘が た盛り土は阪神電気鉄道(阪神電

> 事用に塚の土が使われ、その際に塚の 『住吉村誌』の記述とも対応します。 原形は全く失われてしまったとする 車開設時に住吉川勾配を作る路線工 車)の築堤用土となりま した。阪神電

氏は考古学会会長より古墳調査を命 ずそのことは秘密にされ、封土を取っ の東乙女塚」は、御影町の者に売り渡 ます。それによりますと、「摂津御町村 二月発行)という雑誌に掲載されて 『考古界』 (第三篇第九号、明治三七年 氏から同会長に宛てた調査報告が、 じられました。明治三七年一月に福原 た跡は別の土で埋め戻されていまし 石」のような板石が出たにもかかわら にかけて行われたようで、福原潜治郎 した際に、塚上中央の土が取られ「龍 この土取りは明治三六年から翌年

> 戸 の工事に着手し、同三八年二月には神 その後の交渉がどうなったのかまでは り壊し中止の厳命が下ったとあるが、 鉄板のようなものを発見したので、取 事関係者に聞いたところ発掘品はな り取られてしまいました。福原氏がエ 買戻し、保存する交渉中だったようで 全形」を会社へ売り渡し、【図6】のよう 要するため、持ち主(勝広氏)が「塚の お、阪神電車は明治三六年より阪神間 わからないと締めくくっています。な に違いないとしています。県庁から取 てしまったが、その重さからして金属 り出そうとすると、脆弱で粉末になっ かったとのことでしたが、幅六分位の ることが差し止められ、再び御田村に に取り崩しました。県庁からは破壊す た。その後、さらに阪神敷設で土砂を 出入橋間が開通します。 しかしながら、古墳の中央まで削

■塚の祟り?

酒蔵は無残にも倒壊してしまいまし 十月頃に大暴風雨のためにその立派な 牢な酒蔵を建築しましたが、その年の のところに某酒造会社が数百坪の堅 墳の盛り土で浜新田の低地千余坪に た。他の小さな住宅には被害がないの わたって数尺の地面の嵩上げをし、そ なお、『住吉村誌』によれば、この古

でした。 はばかられたのでしょうか、伏せられ の年」とあるだけで具体的な年は記さ とあります。ただ、『住吉村誌』には「そ は未だに大部分が空き地になっている です。酒蔵建築は断念され、その土地 はないかと村人の間で噂になったそう の土を使用したからで「塚の祟り」で の十月に暴風雨の記載はありません をしたと考えられる明治三六年以降 ています。『住吉村誌』年表には土取り れていません。また酒蔵会社の名前も

に、この酒蔵だけが倒れたのは、古墳

■墳丘からの採土中止と保存運動

10

問題となり、また名勝史跡調査が行わ 誌』にはあります。 り土が残っている部分は村民のゴミ捨 借りて花卉園とし、東部の後円部の盛 すことになったというものです。盛り と交換し、後円部の北東部の一部を残 三七年一月に古墳の地を反高林村有地 す。つまり、心ある人々の間で土取りが に関係すると思われる記載がありま て場のような形で残されたと『住吉村 土を取られた西部の平地は「花六」が 村会協議会が開かれ、協議の結果、翌 れたこともあって、明治三六年八月に 『住吉村誌』には、福原氏が記す交渉

その後大正四年に至り塚の所在地

ができない。国民は歴史の外に出る きない。鴫は水沢沼池を忘れること ない子孫へ残すこととする。 大正四年十一月

学校の訓導(現在の教諭)であった森川 の碑文を書いたのは、住吉尋常高等小 る伝承が地元に周知される機会を得 また、この時に至って莵原処女をめぐ 強い意志がこの碑からはうかがえます。 擁する地として後世に保存すべきとの じさせる用語もありますが、求女塚を たといえるのではないでしょうか。こ 「報本反始」や「愛国心」など時代を感 長左衛門で

間に個人の手に帰して別荘となってお

りました。一方、西求女塚古墳は明治年 定され、同古墳は神戸市の管理下とな は大正 | 年三月八日に国の史跡に指 処女塚古墳(東灘区御影塚町二丁目)

史蹟名勝天然記念物保存法により

り、戦後にいたってようやく市有地と

なりました。その点、東求女塚古墳に

念碑を建てて史蹟の保存に努めまし

た(【図7·8】)。

以下のようになります。

鳩は倭樹短草を忘れることがで

すので、試みに現代語訳してみますと、

表面の碑文は漢文で記されていま

本反始(祖先の恩に報いること)の念

国民の性能を発揮させることで、報 永くいにしえを目の当たりにさせ、 けを保存するということではなく 蹟を保存するのは、ただ国の美点だ

名によっているが、その史蹟は荒廃 べきである。この地は古来、求女塚の を厚くし、旺盛なる愛国心を養成す

して日が久しい。よって、整備をおこ

植えるなどして風致をよくするとと

土の上に梅・松・楓の樹木二十数本を

ことができない。こういうわけで古

もに、頂上に「求女塚之碑」と題する記

て形を整えたり石垣を積んだり、盛り

である仲区民一同によって、土を加え

碑の裏面下

東求女塚古墳(求女塚東公園) 田要蔵·下田 田庄蔵、監督 係者として、 部には工事関 清五郎両氏は 仲区民一同と 従事者として えます。また、 氏の名前が見 中井福太郎・ の横田要蔵・ 住吉村長の谷 あります。横 下田清五郎諸

> がえます。 人々の史跡保存に対する努力がうか

立つ大正四年であり、建碑した当時の 記念碑が建てられたのはそれらに先

地がなされました。八月には園舎が竣 三番地の一原野二反二畝歩を無償で借 園舎敷地として村有地字塚ノ後一二四 開設されるのに伴って、その三月には 志にて遊喜園(現市立遊喜幼稚園)が ととなったのです。 かろうじて古墳や遺物が残されるこ の皆さんによる保存への思いによって ることとなりました。このように地区 功し、塚はその園庭の東端に保存され り受け、仲区民の勤労奉仕によって整 また、大正七年に久原房之助氏の篤

頃確定されたのか、またどのような出 介したいと思います。 土品があったのかという点について紹 次回は、東求女塚古墳の名称がいつ

【図7】『住吉村誌』掲載の東求女塚古墳

求

塚

仲区選出の村